

事務事業名	食生活改善推進員養成事業	事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係	連絡先	330	

計 画 目 録 （ P L A N ）	政策番号	01	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
			基本計画①	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業									
			基本計画②	01	地域福祉計画	0000	複数の柱にまたがる事業									
			実行計画	08	食育推進計画	0303	食育を広める									
予 算 事 業 名	食生活改善推進員育成事業費						会計コード	02	款	04	項	03	目	03	事業	03
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	おいしく楽しく健康講座：市内の成人男女を対象とし、年6回健康に関する講座を開催する。この講座の特定単位を取得した人に、修了証を発行し、食生活改善推進員に入会する資格とする。															
現 状 と 背 景 （どうして）	食生活が多様化、情報が氾濫する中、生活リズムや食生活の乱れが目立つ。これらが、生活習慣病の有病率にも繋がっている。このような中で、さまざまなライフステージにおいて、健康を維持・増進するために、望ましい食生活を実践する力を付ける等、健康意識を高め実践していく必要がある。															
目 的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	市民														
	対象 対象 （直接働きかける）	市民														
	的 意 図	食や運動に関する正しい知識を習得し、健康意識を高め、自分や家族の健康増進のために望ましい食生活を実践する。講座を修了した人は食生活改善推進員として地域の食生活改善に取り組む。														
	手 段 ・ 方 法 （どうやって）	年間計画を企画し、広報、ピーナチャンネル、ホームページ、新聞等様々なメディアで、参加を呼びかける。食事・運動・休養に関する講話や実技、グループワーク、調理実習を行う。														
実 施 状 況 （ D O C U M E N T ）	評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
			1	食生活改善の重要性の理解度の向上	教室実施回数	回		5								
			2													
			3													
		変更履歴	2019年度から教室の開催回数を5回とする													
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
		1	食生活に興味、関心を持つ	のべ参加者数	人	教室参加者数	120									
		2														
		変更履歴														

実 施 状 況 （ D O C U M E N T ）	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	85,556	94,000				
		国庫支出金	円						
		県支出金	円	9,000					
		地方債	円						
	活 動 指 標	教室実施回数	目標	回	6	5			
			実績	回	6				
		達成率	%	100.00	-	-	-	-	
		-	目標	-					
			実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	-		
	成 果 指 標	のべ参加者数	目標	人	120	100			
			実績	人	122				
		達成率	%	101.67	-	-	-	-	
		-	目標	-					
実績			-						
達成率	%	-	-	-	-	-			
備 考									

事務事業名	食生活改善推進員養成事業		事業期間	~	年度	係内番号	22
担当部署	健康福祉部	健康づくり推進課	健康推進係		連絡先	330	

中 評	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
価	課長評価日					

事 後 評 価 ( C H E C K )	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	～成果変果動指要標因分～析	受講者が16人と少なかったことに加え、60代4人、70代9人と高齢者が多かった。そのため11人の修了者のうち、食生活推進協議会の入会者が4人と少なくなった。					
	総合評価	食生活推進協議会の入会者は少なかったが、アンケート結果から、自分の健康のために、「薄味を心がけるようになった」「ウォーキングを始めた」「食事に気を付けるようになった」と受講者全員が何らかの行動をするようになった。					
	課題	高齢の参加者が多くなる傾向にあるため、食生活改善推進協議会への参加者が少ない。					
改革・改善の方向性(ACIT)	改及成果やコストの方向性の内容	自分や家族の健康について見直し、実践する人を増やしたり、食育活動をする人を増やすため、各施設にチラシを配布したり、ピーナチャンネル、広報ちのでの呼びかけを早い時期から始め、応募期間を延ばす。また、若い人の参加者を増やすため、保育園の保護者にチラシを配布する。食生活改善推進員にも参加の呼びかけを協力してもら					
改革・改善の方向性(ACIT)	翌々年度方向性	成果 コスト	拡充 現状維持				

作成担当者	堀 美恵				
最終評価責任者	柳澤 澄子				
最終評価年月日	2019年5月17日				